

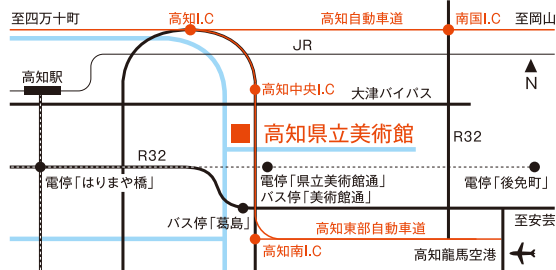
ご利用案内

【開館時間】9:00～17:00（入場は16:30まで）
【休館日】12月27日～1月1日 ＊展示替えのため休室あり
【駐車場(無料)】普通車144台・大型バス10台・身障者用2台
＊なるべく公共交通機関をご利用ください。

【観覧料(料金は全て税込み価格)】
●コレクション展／一般400円(団体320円)大学生280円(団体220円)
●企画展／企画展毎に異なります。お問い合わせください。
＊美術館主催の企画展の観覧券でコレクション展もご覧いただけます。

美術館主催のコレクション展・企画展は
●高校生以下無料●年間観覧券所持者(2,620円)は無料●身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、戦傷病者手帳、被爆者健康手帳所持者とその介護者1名は無料●高知県及び高知市長寿手帳所持者は無料●団体割引適用は20名以上

アクセス



岡山から ➡ 高知自動車道で約1時間50分 ㊦ JR特急で約2時間30分
高松から ➡ 高知自動車道で約1時間30分 ㊦ JR特急で約2時間
松山から ➡ 高知自動車道で約1時間40分 ➡ 高速バスで約2時間45分
徳島から ➡ 高知自動車道で約2時間 ➡ 高速バスで約2時間40分
東京から ➡ 羽田空港から約1時間15分、空港連絡バス「葛島」下車
大阪から ➡ 伊丹空港から約45分、空港連絡バス「葛島」下車
福岡から ➡ 福岡空港から約1時間、空港連絡バス「葛島」下車

㊦ とさでん交通路面電車：電停「はりまや橋」から「ごめん」「領石通」または「文殊通」行で15分、電停「県立美術館通」下車徒歩5分。
㊦ 空港連絡バス：高知龍馬空港からは高知市内・空港間を結ぶ、とさでん交通の空港連絡バスがご利用いただけます。バス停「葛島」下車徒歩15分。
➡ 車・タクシー：JR 高知駅から20分／高知龍馬空港から20分／四万十方面、県外からお越しの方は、高知自動車道・高知インターから10分、安芸方面からお越しの方は、東部自動車道・高知南インターから5分、高知中央インターから3分。
＊東部自動車道方面からは、高知インターで降りられません。ご注意ください。

高知県立美術館 THE MUSEUM OF ART, KOCHI

〒781-8123 高知県高知市高須353-2
TEL 088-866-8000 FAX088-866-8008
f kochimuseum @ themuseumofartkochi
ARTMUSEUM_Kochi @TheMuseumofArtKochi

表紙：オーブリー・ピアズリー 《「キーンツ叢書」の宣伝ポスター》(部分)
1993年(原画)、1966年(復刊)
ウィクトリア・アンド・アルバート博物館蔵 Photo: Victoria and Albert Museum, London

MUSEUM GUIDE

こんなところ

高知県立美術館は、1993年11月3日に開館しました。これまでに近代・現代の美術作家や郷土関係作家のコレクション展と、国内外の様々なジャンルの作品をご紹介します企画展を多数開催してきました。なかでも世界有数のシャガール・コレクションは、入れ替えながら常設展示しています。また、高知県ゆかりの著名な写真家・石元泰博のプリント・フィルム・関連資料等を網羅的に所蔵し、2013年6月、石元泰博フォトセンターを開設しました。能舞台を有する併設のホールでは、国内外のパフォーマンス・演劇・コンサート・映画・伝統芸能などを上演し、幅広く芸術文化に親しんでいただくため、講座・講演会・ワークショップなども随時開催しています。



美術館外観

美術館ホール

主な収蔵作家

2025年4月時点で、42,322点の作品を収蔵しています。

【マルク・シャガール】《空を駆けるロバ》《村の祭り》《路上の花束》《花嫁の花束》《オルジュワルの夜》の油彩画5点、《死せる魂》《サーカス》《ダフニスとクロエ》《ボエム》《アラビアンナイトからの四つの物語》《もの言わずして語る人》など、版画約1,200点を収蔵しています。

【石元泰博】《シカゴ》《東京》《桂離宮》《伊勢神宮》《シブヤ、シブヤ》などの写真プリント約35,000点のほか、ポジ・ネガフィルム、石元氏が所有していた蔵書や愛用品などを収蔵しています。

【国内外の主要作家】 アンディ・ウォーホル、大竹伸朗、アンゼルム・キーファー、マックス・クリンガー、パウル・クレー、フランク・ステラ、篠原有司男、ジャン＝ミシェル・バスキア、ウィリアム・バロウズ、舟越桂、キース・ヘリング、ヨーゼフ・ボイス、森村泰昌、ゲルハルト・リヒター、横尾忠則、若林奮ほか

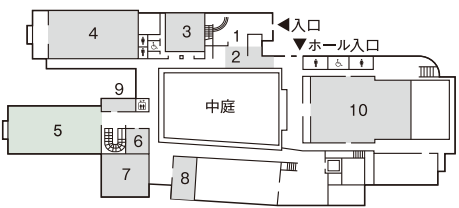


【高知県ゆかりの作家】 石川寅治、今西中通、絵金、岡上淑子、奥谷博、河田小龍、楠永直枝、合田佐和子、高崎元尚、竹崎和征、中山高陽、浜田浄、浜田葆光、土方久功、日和崎尊夫、正延正俊、森田曠平、柳原睦夫、山本昇雲、山本倉丘、山脇信徳ほか

菊畑茂久馬《海・暖流 4》
カンヴァスに油彩 1990年

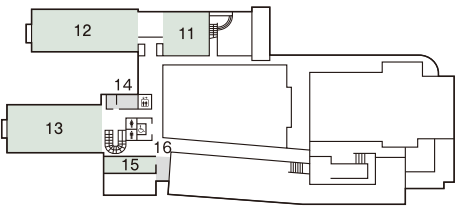
館内案内

1F



1 総合案内 5 展示室D 9 休憩コーナー
2 ミュージアムショップ 6 シアタールーム 10 美術館ホール・能楽堂
3 ミュージアムカフェ・マルク 7 創作室
4 県民ギャラリー 8 講義室

2F



11 展示室A 14 休憩コーナー＋授乳コーナー
12 展示室B 15 石元泰博展示室
13 展示室C 16 アート情報コーナー

設計監理：
日本設計・環境設計・山本長水・アルティ・高知設備設計共同企業体

館内設備：
●車イス・ベビーカー ●多目的トイレ (2Fはオストメイト対応)
●オムツ替え台 ●コインロッカー ●授乳コーナー ●エレベーター
●シルバーカー、杖、老眼鏡

サービス

【年間観覧券】
年会費／2,620円 有効期間／お申込みから1年間
- 当館主催の展覧会を有効期限内何度でもご覧いただけます
- 当館主催の映画上映会に当日でも前売料金でご入りいただけます
＊美術館1F総合案内にてお申込みください

【無料託児】
企画展・ホールイベント開催中のみ不定期で実施します。日程などの詳細は美術館までお問い合わせください

【ご来館の皆様へお願い】
- 咳、くしゃみ、鼻水などの症状がある方は、咳エチケットなど他のお客様へのご配慮をお願いします
- 館内で大声での会話は控えください

PERFORMING ARTS & FILMS

*内容等が変更になる場合があります。
詳細は当館ウェブサイトをご覧ください。

「大谷康子 & イタマール・ゴラン デュオリサイタル」

5月10日(土)

ヴァイオリニスト大谷康子は2025年にデビュー50周年を迎えます。記念ツアーの初演地に自ら選んだのが高知県立美術館ホール。当ホールでのコンサートは5年ぶりの開催です。リトアニア出身のピアニスト イタマール・ゴランも出演。演奏予定は、ヴァイオリン・ソナタ 第3番 二短調 Op.108ほか。



© Masashige Ogata

ダンス兼演劇作品

「ダンスの審査員のダンス」

12月13日(土)・14日(日)

国内外で高い評価を得ている演劇作家の岡田利規が手掛ける演劇とダンスの新作公演。中村恵恵や酒井はな、島地保武ら注目のダンサー・俳優・音楽家たちが出演します。鷺田清一の“所有論”に着想を得て、表現領域の境界を軽やかに飛び超える、新感覚の舞台作品です。



岡田利規 © Kikuko Usuyama

神楽公演

2026年1月3日(土)

高知県内に伝わる神楽で新年を寿ぐ人気シリーズ。郷土芸能ファンから高知帰省中のご家族まで、幅広い方々に楽しんでいただけます。ぜひ一年の始まりを美術館能楽堂でお過ごしください。出入自由、入場無料。



会場：能楽堂

Michèle Anne De Mey, Jaco Van Dormael, Astragales 「コールド・ブラッド (COLD BLOOD)」

10月4日(土)・5日(日)

8年前、一夜限りの幻の公演となった「キス&クライ」のアーティストが贈る第2作「コールド・ブラッド」の招聘が決定！舞台上でダンス作品と映画製作が同時に立ち上がる至高の時間。ジオラマの舞台美術のあいだを踊る指先の主人公が誘う、人生の終末の物語。演出は、ベルギーを代表するダンス・カンパニー「ローザス」創設メンバーの振付家ダンサーのミシェル・アンヌ・ドゥ・メイと、映画『トト・ザ・ヒーロー』『八日目』『ミスター・ノーバディ』『神様メール』の映画監督ジャコ・ヴァン・ドルマル。



© Julien Lambert

春の定期上映会

ヌーヴェルヴァーグとフィルム・ノワールをつなぐフランスの鬼才 ジャン＝ピエール・メルヴィル監督特集

5月24日(土)・25日(日)

ヌーヴェルヴァーグに多大な影響を与えたフレンチ・ノワールの巨匠、ジャン＝ピエール・メルヴィル監督を特集。初期の傑作『賭博師ポプ』、アラン・ドロンの主演の名作『サムライ』、ジャン・コクトーの同名小説を映画化した『恐るべき子供たち』などを上映します。



『サムライ』

夏の定期上映会 8月23日(土)・24日(日)

秋の定期上映会 11月15日(土)・16日(日) ＊予定

冬の定期上映会 2026年2月7日(土)・8日(日) ＊予定



2025.4
2026.3

令和7年度
年間スケジュール

高知県立美術館 THE MUSEUM OF ART, KOCHI

EXHIBITION

*年間観覧券をお持ちの方は下記展覧会を無料でご覧いただけます。(高知県展を除く)
*記載事項は、2025年2月現在のものです。名称等変更になる場合もあります。

2025年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2026年 1月	2月	3月
----------	----	----	----	----	----	-----	-----	-----	----------	----	----

展示室 A

コレクション・アラカルト
シャガールの油彩画をはじめ、当館が所蔵する秀作を紹介します。日本・西洋問わず選りすぐりの名品をご覧ください。

**英国王室に咲く
ボタニカルアートとウェッジウッド**
4月24日(木)～6月29日(日)

近世以降、英国の人々を魅了した色とりどりのボタニカルアート(植物画)。北方に位置するこの国原産の植物は多くありませんが、世界進出に伴い、各地から集められた植物が植物画や標本として記録されました。本展は英国の植物画を象徴する『カーティス・ボタニカル・マガジン』の他、17～19世紀の植物画を通じて、英国王室から市民にまで愛された美しい花々の姿をご紹介します。

ビエール＝ジョセフ・ルドゥーテ《バラ「アメリカ」(バラ科)》
Photo Brain・Trust Inc.



コレクション・アラカルト ②
新収蔵品(野見山暁治)など
7月12日(土)～9月7日(日)

**安野先生の
ふしぎな学校**
7月12日(土)～9月7日(日)

『ふしぎなえ』『かぞえてみよう』『旅の絵本』など、画家・安野光雅氏(1926-2020)の絵本作品は独自の世界観で知られ、国際アンデルセン賞画家賞を受賞するなど国内外で高く評価されています。美術の教員でもあった安野先生。絵本原画や書籍の装丁、執筆活動など幅広い分野の作品を、学校の授業科目に見立てて紹介します。幅広い世代に親しみやすく、ご家族で楽しめる展覧会です。

「7」『かぞえてみよう』より
1975年 ©空想工房
画像提供:津和野町立安野光雅美術館

コレクション・テーマ展
西洋画など
9月13日(土)～10月19日(日)
休:9月26日～10月3日

**第79回
高知県美術展覧会**
10月4日(土)～19日(日)

〔主催〕
高知新聞社
RKC高知放送
〔会場〕
展示室B・C
県民ギャラリー

コレクション・アラカルト ③
山本昇雲(今すがた)など
11月1日(土)～1月18日(日) 休:12月27日～1月1日

異端の奇才 ピアズリー展
11月1日(土)～1月18日(日)
休:12月27日～1月1日

英国の奇才、オーブリー・ピアズリー(1872-1898)は、精緻な線描や大胆な白と黒の色面で代表作『サロメ』の挿絵などを描きました。出世作のマロリー著『アーサー王の死』から後期の傑作ゴージェ著『モーバン嬢』まで、初期から晩年までの挿絵や希少な直筆の素描、彩色されたポスターや同時代の装飾などを通じてピアズリー芸術を展覧します。

オーブリー・ピアズリー《クライマックス》1893年(原画)
ヴィクトリア・アンド・アルバート博物館蔵
Photo: Victoria and Albert Museum, London



コレクション・アラカルト ④
清原啓子《後日譚》など
2月～4月 *予定

高知の前衛(仮称)
2月～4月 *予定

本展は、1962年に美術家・濱口富治(1921-2009)らが高知で結成した前衛美術グループ「前衛土佐派」の活動を軸に、1950～70年頃に高知で起きた前衛美術運動の実態に迫ろうとするものです。最新の調査研究成果をもとに、前衛土佐派に参加した作家たちの作品や、当時の批評、展覧会広報物、記録写真といった資料を通し、当時のアートシーンを明らかにすることを試みます。

濱口富治
《メカニズムを閉じこめたよるこび》
1963年 撮影:中島健蔵

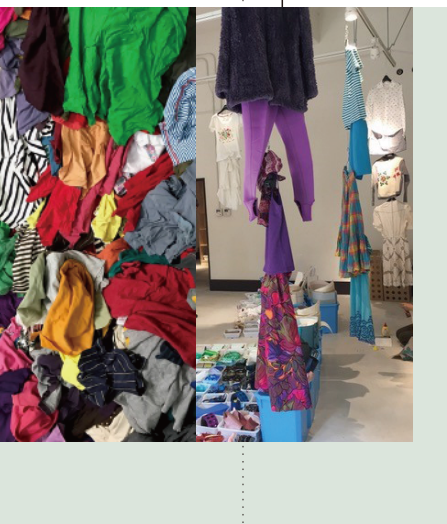
**コレクション・テーマ展
生誕150年石川寅治展**
3月25日(火)～7月3日(木)
休:5月12日(月) *展示替えのため

明治から大正、昭和にかけて活躍した高知県出身の洋画家、石川寅治(1875-1964)。生誕150年を記念し、初期の写実的な油彩画から国内外を旅して描いた水彩画や素描、モダンガールの女性の姿を表した木版画など、選りすぐった作品を展示します。



**高知サマープロジェクト2025
マテリアル・ミュージアム II
くふうようふく
きったり・ぬったり・つないだり**
7月12日(土)～9月15日(月・祝)

廃材や端材を創造力をもって生まれ変わらせる活動「クリエイティブリユース」のエキスパート、大月ヒロ子さん監修で行う「マテリアル・ミュージアム」。2020年に続く第2弾は、古着を切ったり、縫ったり、いろんな風につないだりして、新しい服を作ります。Tシャツを履いたり、ズボンを被ったり、裏側を表に出したり、シャツを半分ずつつなぎ合わせたりして、常識にとらわれず、うんと自由につくることがや着ることを楽しんでみましょう!



**コレクション・テーマ展 シャガール特別展示
マルク・シャガール 挿画本の世界**
10月21日(火)～1月18日(日)
前期:10月21日(火)～11月30日(日) 後期:12月2日(火)～1月18日(日)
休:12月1日 *展示替えのため 休:12月27日～1月1日

ピアズリー展開催に合わせ、シャガールの版画による挿画本を展示します。《わが生涯》、《ダフニスとクロエ》、《サーカス》など代表作が一堂に会します。どうぞお楽しみに!

石元泰博展示室

石元泰博・コレクション展
世界随一の規模を誇る当館収蔵作品群から、選りすぐりの作品を3つのテーマごとに紹介します。

落ち葉と空き缶 前期
4月24日(木)～6月29日(日)

石元泰博《落ち葉》1987年
©高知県、石元泰博フォトセンター

落ち葉と空き缶 後期
7月12日(土)～10月19日(日)
休:9月8日～12日、9月26日～10月3日

石元泰博《空き缶》1980年代-94年
©高知県、石元泰博フォトセンター

万博
11月1日(土)～1月18日(日)
休:12月27日～1月1日

石元泰博《大阪万博 東芝IH館(黒川紀章)》1970年頃
©高知県、石元泰博フォトセンター

夜のシカゴ
2月～4月 *予定

石元泰博《シカゴ ハロウィン》1948-52年
©高知県、石元泰博フォトセンター

「大谷康子&イタマール・ゴラン デュオリサイタル」 5月10日(土)	春の定期上映会 ジャン＝ピエール・メルヴィル監督特集 5月24日(土)・25日(日)	夏の定期上映会 8月23日(土)・24日(日)	Michèle Anne De Mey, Jaco Van Dormael, Astragalos 「コールド・ブラッド(COLD BLOOD)」 10月4日(土)・5日(日)	秋の定期上映会 11月15日(土)・16日(日) *予定	ダンス兼演劇作品 「ダンスの審査員のダンス」 12月13日(土)・14日(日)	神楽公演 1月3日(土) *予定	冬の定期上映会 2月7日(土)・8日(日) *予定
--	---	-----------------------------------	--	--	---	----------------------------	-------------------------------------

石元泰博展示室
Performing Arts & Films